

○ キクカ（菊花）



語源

学名中の*Chrysanthemum*（キク属）は、ギリシャ語でクリューソス「金（きん）、黄金」＋アントス「花」＝「黄金の花」から。種小名 *morifolium* は、ラテン語で、*morus* モールス「クワ（桑）」＋*-folia* フォリア「～の葉」を意味する接尾辞（女性形）＝「クワのような葉の」を意味する。一方、和名「菊花」の「菊」の字のくさかんむり下部分は、「すくう」の意味で（掬う＝すくう）、手の中で米を丸めて握ったさまを表す。菊が、多数の小花が集まった「頭状花」をつけることを描写している。

基原

Chrysanthemum morifolium キク
キク科 多年草

薬用部分

頭花

産地

中国

主な成分

ルテオリン、キッカノール

主な薬効

解熱、解毒、鎮痛、消炎薬として感冒、発熱、悪寒、頭痛などに用いられる。

代表的処方

漢方では、降圧作用、消炎、利尿作用、解熱、目の充血のために用いられてきた。

【杞菊地黄丸】

コギクジオウガン
中心性網膜炎、視神経萎縮、球後視神経炎などの眼疾患、高血圧症、自律神経失調症などで、肝腎陰虚、肝火旺の症に用いる。
（処方内容） 枸杞子／山薬／熟地黄／菊花／茯苓／沢瀉／山茱萸／牡丹皮

【釣藤散】

チョウトウサン
常習頭痛、めまい、肩こり、高血圧症、動脈硬化による頭痛、更年期障害、メニエール症候群に用いる。
（処方内容） 釣藤鈎／防風／橘皮（または陳皮）／菊花／半夏／甘草／麦門冬／乾生姜／茯苓／石膏／人參

【滋腎明目湯】

ジジンメイモクトウ
血が少なく眼が痛むもの、慢性病で気力が衰え眼精疲労し、あるいは閃視、内障（眼球内部の疾患）のもの
（処方内容） 当歸／川芎／芍薬／生地黄／熟地黄／桔梗／人參／山梔子／黄连／白芷／蔓荊子／菊花／甘草／細茶／燈心草

文献報告

【抗アレルギー】

Comparative evaluation of cultivars of *Chrysanthemum morifolium* flowers by HPLC-DAD-ESI/MS analysis and antiallergic assay

J. Agric. Food. Chem, 2012, 60, 12574-83

【抗炎症】

Constituents of compositae plants. 2. Triterpene diols, triols, and their 3-o-fatty acid esters from edible chrysanthemum flower extract and their anti-inflammatory effects

J. Agric. Food. Chem, 2001, 49, 3187-97

※参考文献：「日本薬局方」「生薬単」「和漢薬の事典」「牧野和漢薬草大図鑑」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力
福田龍株式会社

（お問い合わせ） 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11
TEL：06-6364-5861 FAX：06-6364-6562
URL：www.fukudaryu.co.jp